

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	東洋鍼灸専門学校
設置者名	学校法人素霊学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の 単位数	省令で定める 基準単位数	配 置 困 難
医療専門課程	鍼灸あん摩マッ サージ指圧学科 昼間部	夜・ 通信	100単位 (2,570時間)	10単位 (240時間)	
	鍼灸あん摩マッ サージ指圧学科 夜間部	夜・ 通信	100単位 (2,570時間)	6単位 (135時間)	
	鍼灸学科 昼間部	夜・ 通信	94単位 (2,370時間)	10単位 (240時間)	
	鍼灸学科 夜間部	夜・ 通信	94単位 (2,370時間)	6単位 (135時間)	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにて授業科目一覧を公開。授業科目一覧の中で、教員の实務経験に関するチェック欄あり。
(掲載：<https://www.toyoshinkyu.ac.jp/about/disclosure/>)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東洋鍼灸専門学校
設置者名	学校法人素霊学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPにて理事名簿を公開している。
 （掲載：<https://www.toyoshinkyu.ac.jp/about/disclosure/>）

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2025.5.11～ 令和11年度の 定時評議員 会終結時	組織運営体制への チェック機能・法務
非常勤	鍼灸師	2025.5.11～ 令和11年度の 定時評議員 会終結時	学校運営計画の策 定・教職員指導に関 する知見
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東洋鍼灸専門学校
設置者名	学校法人素霊学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 鍼灸あん摩マッサージ指圧学科 昼間部(3年制) 鍼灸あん摩マッサージ指圧学科 夜間部(3年制) 鍼灸学科 昼間部(3年制) 鍼灸学科 夜間部(3年制) 【作成について】 カリキュラムについては、毎年度、学内のカリキュラム委員会、教育課程編成委員会により、臨床能力向上に適した授業科目の設定・講義内容の検討・検証により作成している。授業計画書(シラバス)は、授業担当教員が、授業概要、学習内容、学習目標、学習方略、評価方法について記載しており、学内統一様式でシラバス作成を行っている。 【時期について】 授業科目については、9月の理事会・評議員会で承認される。 翌年度の授業計画書(シラバス)は1月から2月に担当教員が作成している。	
授業計画書の公表方法	開校時間中、事務室にて受付、書面でどなたでも閲覧可能
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学則において成績評価、進級、課程修了の認定について規定している。各学科で定める授業科目の試験により成績評価を行っている。 (課程修了の認定) 第22条 各課程の修了の認定は、各学科を修業年限以上在学し、次の各号に定める単位数以上を修得した者について行う。 (1) 鍼灸あん摩マッサージ指圧科 116単位 (2) 鍼灸科 110単位 2 校長は、本校所定の全課程を修了したと認めた者には、卒業証書を授与する。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 学則において学業成績の評価について規定している。 (成績評価、進学) 第18条 成績評価の基準は、A－80点以上、B－70点以上、C－60点以上、D－60点未満とし、学習態度良好にしてC以上の成績評価を得た場合に単位認定する。 2 原則として全ての学科目を修了したと認定された場合に進級させる。 3 単位認定及び進級判定の詳細は別に定める。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	開校時間中、事務室にて受付、書面でどなたでも閲覧可能
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業の認定は、3年間のすべての単位を取得したものについて認定している。本校では、ディプロマポリシーを作成している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	開校時間中、事務室にて受付、書面でどなたでも閲覧可能

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	東洋鍼灸専門学校
設置者名	学校法人素霊学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	毎年最新情報をHP公開している https://www.toyoshinkyu.ac.jp/about/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	開校時間中、事務室にて受付、書面でどなたでも閲覧可能
監事による監査報告（書）	毎年最新情報をHP公開している https://www.toyoshinkyu.ac.jp/about/disclosure/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

（1）鍼灸あん摩マッサージ指圧科 昼間部

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸あん摩マッサー ジ指圧科 昼間部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
			86 (1,700 単位時間)		4 (180 単位時間)		26 (980 単位時間)
3年	昼	116単位 (2,860 単位時間)					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		92人	0人	14人	18人	32人	
(備考) ()内の数字(○単位時間)は、令和7年度以前入学者に適用される単位時間を記載している。							

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法

(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 担任による面談、小テスト・模試による学習状況の把握等により学習意欲の維持・向上につとめている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25人 (100%)	0人 (0%)	18人 (72%)	7人 (28%)
(主な就職、業界等) 医療業界、美容鍼灸サロン、訪問マッサージ、病院			
(就職指導内容) 転職活動の進め方のアドバイス、求人紹介、面接指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
91人	3人	3.3%
(中途退学の主な理由) 体調不良、学費の工面が難しい、疾病の治療		
(中退防止・中退者支援のための取組) 授業を楽しいものと感じるように工夫する。 担任を始めとし、教職員との、学生同士のコミュニケーションに留意する。 課外授業、実技室開放、学校行事への積極的な参加を促す。 学生の体調管理を徹底する。 学業指導、生活指導等すべてに早め早めの指導と都度指導を心がける。		

(2) 鍼灸あん摩マッサージ指圧科 夜間部

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸あん摩マッサージ指圧科 夜間部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	夜	116単位 (2,860 単位時間)	86 (1,700 単位時間)		4 (180 単位時間)		26 (980 単位時間)
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		77人	0人	14人	22人	36人	
(備考) ()内の数字(○単位時間)は、令和7年度以前入学者に適用される単位時間を記載している。							

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
(概要) 担任による面談、小テスト・模試による学習状況の把握等により学習意欲の維持・向上につとめている。

卒業者数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	13人 (81.2%)	3人 (18.8%)
(主な就職、業界等) 医療業界、鍼灸整骨院、スポーツマッサージ治療院			
(就職指導内容) 転職活動の進め方のアドバイス、求人紹介、面接指導			

(主な学修成果(資格・検定等)) はり師、きゆう師、あん摩マッサージ指圧師
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
72 人	5 人	6.9%
(中途退学の主な理由) 介護、進路変更、仕事の都合、進級できないため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 授業を楽しいものと感じるように工夫する。 担任を始めとし、教職員との、学生同士のコミュニケーションに留意する。 課外授業、実技室開放、学校行事への積極的な参加を促す。 学生の体調管理を徹底する。 学業指導、生活指導等すべてに早め早めの指導と都度指導を心がける。		

(3) 鍼灸科 昼間部

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸科 昼間部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	1 1 0 単位 (2,660 単位時間)	8 5 (1,680 単位時間)		4 (180 単位時間)		2 1 (800 単位時間)
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		87 人	0 人	14 人	20 人	34 人	
(備考) () 内の数字 (○単位時間) は、令和 7 年度以前入学者に適用される単位時間を記載している。							

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準

(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 担任による面談、小テスト・模試による学習状況の把握等により学習意欲の維持・向上につとめている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
28人 (100%)	3人 (10.7%)	18人 (64.3%)	7人 (25%)
(主な就職、業界等) 医療業界、鍼灸整骨院、美容鍼灸サロン、クリニック			
(就職指導内容) 転職活動の進め方のアドバイス、求人紹介、応募書類の添削			
(主な学修成果（資格・検定等）) はり師、きゅう師			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
87人	4人	4.6%
(中途退学の主な理由) 体調不良、親の介護、病気のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 授業を楽しいものと感じるように工夫する。 担任を始めとし、教職員との、学生同士のコミュニケーションに留意する。 課外授業、実技室開放、学校行事への積極的な参加を促す。 学生の体調管理を徹底する。 学業指導、生活指導等すべてに早め早めの指導と都度指導を心がける。		

(4) 鍼灸科 夜間部

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸科 夜間部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	夜	1 1 0 単位 (2,660 単位時間)	8 5 (1,680 単位時間)		4 (180 単位時間)		2 1 (800 単位時間)
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		50 人	0 人	14 人	24 人	38 人	
(備考) () 内の数字 (○単位時間) は、令和 7 年度以前入学者に適用される単位時間を記載している。							

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
(概要) 担任による面談、小テスト・模試による学習状況の把握等により学習意欲の維持・向上につとめている。

卒業者数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (100%)	5人 (29.4%)	10人 (58.8%)	2人 (11.8%)
(主な就職、業界等) 医療業界、美容鍼灸サロン、鍼灸整骨院、介護施設			
(就職指導内容) 転職活動の進め方のアドバイス、求人紹介、面接指導			

(主な学修成果(資格・検定等)) はり師、きゆう師
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
62 人	5 人	8.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良、一身上の都合、家庭との両立が困難		
(中退防止・中退者支援のための取組) 授業を楽しいものと感じるように工夫する。 担任を始めとし、教職員との、学生同士のコミュニケーションに留意する。 課外授業、実技室開放、学校行事への積極的な参加を促す。 学生の体調管理を徹底する。 学業指導、生活指導等すべてに早め早めの指導と都度指導を心がける。		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
鍼灸あん 摩マッサ ージ指圧 科 昼間部	700,000 円	1,350,000 円	520,000 円	
鍼灸あん 摩マッサ ージ指圧 科 夜間部	700,000 円	1,350,000 円	520,000 円	
鍼灸科 昼 間部	700,000 円	1,000,000 円	520,000 円	
鍼灸科 夜 間部	700,000 円	1,000,000 円	520,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校 HP で公開している。 (掲載： https://www.toyoshinkyu.ac.jp/about/disclosure/)		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）		
学校関係者として、業界代表、学識経験者、卒業生、保護者計6名からなる学校関係者評価委員会を組織し、それぞれの知見を活かした教育内容・学校運営等について評価を行っている。 評価内容は理事会、評議員会、運営会議、教育課程編成委員会などで報告され、次年度以降の改善に取り組んでいる。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
鍼灸業界関係者（鍼灸師会前会長）	2026.4.1～2028.3.31	業界団体
鍼灸師	2026.4.1～2028.3.31	卒業生
本校以外の私立学校経営者	2026.4.1～2028.3.31	学識経験者・地域
教科書編集会社経営者	2026.4.1～2028.3.31	学識経験者
その他校長が必要と認める者	2026.4.1～2028.3.31	保護者・企業勤務
その他校長が必要と認める者	2026.4.1～2028.3.31	保護者
第三者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 当年度評価について、学校 HP で公開している。 (掲載： https://www.toyoshinkyu.ac.jp/about/disclosure/)		
(備考) 第三者評価は未実施であり、上記表中の第三者評価に係る各項目は、昨年度に実施した学校関係者評価に関する情報を記載している。		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) (掲載： https://www.toyoshinkyu.ac.jp/)

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H113310400211
学校名 (〇〇大学 等)	東洋鍼灸専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人素霊学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		－ 人（－ 人）	－ 人（－ 人）	－ 人（－ 人）
内 訳	第Ⅰ区分	－ 人	－ 人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅱ区分	0 人	－ 人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅲ区分	－ 人	－ 人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(－ 人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	0 人	0 人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－ 人	0 人	
	区分外（多子世帯）	－ 人	－ 人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0 人（0人）
合計（年間）				－ 人（0人）
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0 人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当）	0 人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	0 人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0 人	人	人
計	0 人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良である
ことについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期
		人	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたこと
により認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	－人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	－人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	－人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。